時事新報

驛遞局認可

明治十八年二月廿八日
(西曆一千八百八十五年)
土曜日
第九百四號
日曜日休刊

公報

○太政官達號外

宮内卿伯爵伊藤博文不在中特旨ヲ以テ宮内大輔伯爵吉井友實ヘ代理被仰付候條爲心得此旨相達候事

明治十八年二月廿七日　太政大臣公爵三條實美

○陸軍省達甲第十號　警視廳府縣(東京府ヲ除ク)

昨年第三十一號布告火藥取締規則ニ依リ於當省ハ砲兵第一方面及同第二方面ニ於テ火藥類拂下候條拂下希望之者ハ間方面ヘ願出候樣營業人ヘ達方可取計此旨相達候事

但營業人住所姓名幷營業免許證見本添メ其廳ヨリ本文兩方面ヘ通知シ置キ營業人火藥類拂下出願之節ハ必ズ營業免許證ヲ携帶セシムベシ

明治十八年二月廿七日　陸軍卿伯爵大山巖

○工部省告示第二號

函館縣渡島國函館港燈船ノ燈明ハ從來不動白色ノ處來ル三月廿八日ノ夜ヨリ不動赤色ニ變更ス

右告示候事

明治十八年二月廿七日　工部卿伯爵佐々木高行

○東京府布達甲第九號　(伊豆七島小笠原島ヲ除ク)

明治十七年甲第十六號布達中郡區聯帶支辨ノ經費負擔割合法第四條ヲ削除ス

右布達候事

明治十八年二月廿七日　東京府知事芳川顯正

敍任

○明治十八年二月廿六日

贈從六位　故正七位勳六等　磯林眞三

任大藏三等技師　大藏權少書記官正七位　得能通昌

仝　三浦十郎

仝　佐田清次

仝　中村祐興

任大藏四等技師　矢吹亨

仝　增岡鼎五

仝　本原靜一

仝　勝山重良

仝　七條平六

時事新報

要求ノ程度ハ害辱ノ量ニ準ズ

今回伊藤全權大使ガ北京ニ到リ清廷ノ全權大臣ト朝鮮事變ノ始末ヲ談判スルニ當リ我レヨリ要求スル所ノ諸節件有ニ〳〵ナルヤ我輩ノ未ダ聞知セザル所ナリ然レドモじやぱん・めーる新聞幷ニ東京日々新聞ナドノ載スル所ニ依レバ我政府ガ支那政府ニ對シテ要求スル所ハ在京城ノ支那兵及ビ日本兵ヲ互ニ相引キニスル事但シ支那兵ヲ朝鮮ヨリ引揚ゲタレバトテコレニテ朝鮮ガ爵國所屬之邦トノ疑問ヲ決定スルニハアラザル事又去年十二月六日ニ支那ノ將官ガ兵ヲ率ヒテ日本公使ノ守護スル大闕ヲ攻メシハ甚ダ不埒ナル擧動ニ付該國ニテ此將官ヲ罷黜スベキ事ト云フニ在リテ要求ノ次第ハ全体ニ[illegible]輕少ニシテ支那政府ガコレヲ承諾スルニ苦シムガ如キモノニアラズト云ヘリ此說果シテ伊藤大使ガ携帶スル所ノ訓令ト齟齬スル所ナキヤ否ヤ又我政府ヨリ要求ノ次第ハ此等ノ數點ノミニテ他ニ何事ヲモ申出テザルヤ否ヤハ固ヨリ我輩ノ知ラザル所ナリ唯我輩一個ノ考ヲ以テスレバ我政府ガ支那政府ニ要求スル所ハ必ズシモ日支兩國兵ガ互ニ京城ヲ立退ク事ト當日ノ支那將官袁世凱輩ヲ懲戒令ニ當ツル事ノミニモ限ルマジト思ハル丶ノミ

我輩ハ今回我政府ガ支那政府ニ要求スル所ノ諸點ヲ知ラズコレヲ知ラズト雖ドモ其諸點ノ何レモ皆公平正當ニシテ支那政府モコレヲ受ケテ不平ヲ唱ヘズ日本國民モコレヲ得テ十分ノ滿足ヲ表スベキ甚ダ完全ノモノタルコトハ申スマデモナキ事ト信スルナリ唯我輩ノ聊カ其意ヲ得ザル所アリト云フ一事ハ世間内外ノ論者中往々我政府ニ向テ朝鮮事變ニ關スル支那政府ヘノ要求ノ極メテ輕少ナランコトヲ勸告スルノ言ニ「日本政府ノ要求ハ其受身タル支那政府ガコレヲ甘受スルニ差支ナキ程度ニ止マラザルベカラズ」云々ト唱フルニ在リ而シテ其差支ナキ程度トハ何樣ノ程度ヲ意味スルモノナルカ嘗テコレヲ明示セザルガ故ニ人々唯銘々ノ考次第ニテ其程度ヲ臆定シ或ハコレヲ十ト爲シ或ハコレヲ百ト爲シ十人寄レバ必ズ十種ノ程度アルヲ免カレザルコトナラン程度ノ種々ナルハ避ケベカラザル事トシテコレヲ恕スベシトスルモ此程度ヲシテ支那政府ノ甘受スルニ差支ナキモノタラシメヨト云フニ至テハ實ニ合點ノ行カザル巾條ナリ人アリ來テ我レニ害辱ヲ加フ我レコレヲ回復セントスルニハ先ヅ我被リタル害辱ノ分量ヲ勘査シコレヲ回復スルノ方案ヲ定メ然ル後ニコレヲ致害者ノ目前ニ提出シテ其應諾ヲ求ムルノミ誰カ又先ヅ致害者ノ了見ヲ聞キ彼レガ欲スルマ丶ニ我要求ヲ形造シテ而シテ後ニ徐ロニコレヲ其膝下ニ捧ゲ謹テ其承諾ヲ請フ者アランヤ若シ果シテ斯ル方法ヲ以テ損害回復ノ要談ナリト云ヘバソニハ我損害回復ノ事ハ一切コレヲ致害者ニ委任シ其適意ニ回復法ヲ講セシムルノ方針ヲ其宜シキヲ得ルコトナラン然ルニ今我日本ノ要求ヲ支那ノ甘受スルニ差支ナキモノニ形チ造レト云フハ果シテ何ナル要求ヲ爲スベシト云フノ意ニヤ人ノ心ノ同ジカラザル其面ノ如シ況ンヤ被害ト原害ト双方ニ立別レタル場合ニ於テオヤ我レ彼レノ爲メニ謀リテ忍ブベシト爲ス所ノモノ彼レ自カラ謀リテ忍ブベカラズト爲シ我レノ輕シト爲ス所ハ正シク彼レノ重シト爲ス所タルコモ謀ル多カラン果シテ然ラバ先ヅ支那政府ノ意見ヲ叩クハラザルヨリ外ハ其要求ノ程度ヲシテ彼レガ甘受スルニ差支ナキモノト爲スノ工風ハナカルベキナリ

致害者ノ罪ヲ恐ムノ餘リニモ亦事情ノ憐ムベキモノアルヲ察シ正當賠償ノ法ハ斯ク〳〵ナルベキナレドモ彼レ元來無實ナリ又實力ナシ依テ其罪ヲ減シタル上ニモ又コレヲ減シ十分寛恕ノ處置ニ從フノ場合ナキニモアラズ其一例ヲ擧グレバ今回朝鮮事變ニ關シ日韓條約ノ如キモノ即チ是ナリ朝鮮ノ罪ハ一价ノ使節ヲ東京ニ送リ二名ノ兇徒ヲ刑シ十三萬圓ノ償金ヲ出スヨリ大ナルモノニアラズトノ趣意ニハアラズ唯朝鮮ノ無資無力ナルヲ憐ミ勘定外ノ寛典ヲ以テ其罪ヲ免シタルノミ然ルニ今朝鮮ヲ罰スルノ法ヲ以テ支那ニ對シ四百餘州ノ富我レニ幾十倍スル者アルヲモ顧ミズ我要求ヲシテ不相當ニ輕少ノモノタラシメヨ彼レガ甘受スルニ差支ナキモノタラシメヨト云フハ我輩其何ノ爲メナルカヲ解スルコト能ハザルナリ今回ノ朝鮮事變タルヤ我日本國ハ被害者ニシテ支那國ハ致害者ナリ今我要求ヲ提出スルニ當リ彼レコレヲ甘受スルヤセザルヤヲ問フニ及ハズ我レハ先ヅ我方案ヲ定メ直ナニコレヲ其致害者ニ要求スベキノミコレヲ甘受スルトセザルトハ致害者其人ノ事ナリ我々被害者ノ與リ知ル所ニアラザルナリ

雜報

○兩卿代理　松方參議兼大藏卿、吉井宮内大輔は一昨廿六日左の通仰付られたり

參議兼大藏卿伯爵　松方正義

農商務卿不在中農商務卿兼任被仰付候事

宮内大輔伯爵　吉井友實

宮内卿伯爵伊藤博文不在中代理被仰付候事

○官廳彙報　一昨廿六日大藏三等技師(四級月俸)に任せられし得能通昌氏は同日印刷局會計主務を免せられ印刷局副長申付られたり○大藏三等技師三浦十郎、仝佐田清次、仝中村祐興(以上四級月俸下賜)大藏四等技師矢吹亨、仝增岡鼎五、仝本原靜一、仝勝山重良(以上三級月俸)仝七條平六(四級月俸)の諸氏は一昨廿六日印刷局勤務申付られ三浦氏は印刷局會計主務を增岡氏は同主務副と同日孰れも申付られたり○一昨廿六日東艦長瀧野海軍少佐は今井海軍中佐の病氣引籠中橫須賀鎭守府軍法會議判士長兼務仰付らる海軍中佐柴山矢八、同少佐伊月一郎の兩氏は士官教育法取調委員仰付られたり○去る廿五日橫濱三等主稅官は會計稅課長兼務を差免さる兵頭三等主稅官が會計稅課長申付られたり○一昨日宮內權少書記官廳見義備氏は仝少書記官高辻修長氏の不在中明宮御用掛仰付られたり○警視廳奏任御用掛兼東京府奏任御用掛長谷川喬氏は一昨廿六日司法省に於て同省奏任御用掛一箇年手當金七十圓兼務仰付らる東京始審裁判所詰を命せられたり

○贈位　故歩兵大尉磯林眞三へ昨廿六日左の通贈位相成りたり

(廿七日官報)

故歩兵大尉正七位勳六等　磯林眞三

朝鮮國公使館在勤中能ク其職ヲ盡シ功勞尠ナカラス且該國變亂ニ際シ奔命ニ斃レ候段惻然ノ至ニ付特旨ヲ以テ從六位ヲ贈賜候事

○巡回　農商務權少書記官山本復十良は一昨廿六日宮城、岩手、青森、秋田、山形の五縣巡回仰付けられたり

○終年賞金　東京府士族三元道室杉島三元諸氏は滿十一年以上勤續の廉を以て年金三十一圓を與ふる旨一昨廿六日警視廳より達せられたり

○警備隊試驗委員　非職內務省准奏任御用掛兼宮國氏外諸氏は同省に於て去廿五日左の通仰付られたり

明治十八年…

(各通…

明治十八年…

○萬國普通商法…

年)同國アン…

會と機會とし…

運賃及海外…

行せんとを昧…

賛成を略はんと…

○對敵運動　陸…

り執行する事に…

○憲兵隊派遣…

兵隊を派遣すと…

○濠洲殖民地の…

る電報中に濠…

より蘇丹へ…

建議したるに…

が右に付へラル…

め兵を出さん…

共本國政府が之…

此等は殖民地は…

て果して大に用…

角に嚴然たる…

あるべし抑…

爲めに力を効さ…

た本國政府の不…

量に不滿を抱く…

目覺ましき手…

事容易さの、…

い測慮らぬとの…

が永く此等は…

段とても何事に…

助を與ふるとを…

まて此等の殖民…

の關係を斷ちて…

氣勢を示さんと…

○ニカラガ運河…

カラガ運河條約…

に略ぜしが同院…

決して然るべ…

ハル〜氏ニカラ…

事都合からねば…

く英國會議に…

運河に就き日…

又は他國と…

○英國產業の…

國よりの…

に就き種々の…

業者は…